

導水路熱く討論

名古屋・河村市長
結論「総選挙後」

徳山ダムの木曾川水系連絡

導水路事業をめぐる名古屋市長主催の公開討論会が2日、市公館で開かれた。約150人が参加し、賛否両派の学者の議論後、関係団体や参加者が

発言。「ダムの借金だけ払って水を使えなくてもいいのか」という現実論から、「ごみを減量して藤前干潟を守ったように節水型都市をくろう」という主張も飛び出した。

学者は賛否2人ずつで、反対派が水需要の推移の実態や農業用水と調整した94年夏の経験などを指摘し、不要論を説いた。賛成派は、温暖化で洪水が頻発するようになり、ダムの供給能力が低下するこ

となどを挙げた。

議論が熱を帯びたのはその後、市が選んだ関係団体の発言から。農業用水、堀川浄化運動、愛知県の土地水資源課主幹といずれも推進側が立っ

賛成派は…

「洪水被害は市民生活にも産業、農業にも深刻で、保険としての水の確保が必要。そのため導水路にかける金額は妥当だ。洪水時にも水と緑が豊かなようにするには環境用水を確保する必要がある。わずかなお金をけちって『白い街』に戻るのはいやだ」

(松尾直規・中部大教授)

「21世紀末、東海地方は人口が増える可能性がある。一

た。土地改良区理事が稲や砂を持ち上げ、「名古屋城より古い400年前から調整して水を使ってきた」と苦労を話し、拍手を浴びた。

続くフロアからの発言は7

人。旧徳山村出身の男性が「私たちは不要なダムを造られた、ということになるのか」と苦衷を話した以外は、強弱はあってもみな反対だった。「無駄なダムを造ってし

方で気温は上がり、水の蒸発量が増える。大規模洪水も否定できない。どんな対策をとるかは市民が決めることだが、現段階では導水路を進めることが有効だ」(シミュレーションの結果を示しながら小尻利治・京都大教授)

反対派は…

「導水路を造ってもダムの水には限界があり、最後は名古屋市も地域の農業用水などと調整するしかない。私は早めにその調整をしようと言っ

まったから、導水路も、というのはおかしい」「長良川河口堰やダムをいつの間にか、洪水対策にすり替えた。けじめがない」

終了後、河村たかし市長は結論を出す時期について、「最終的には国土交通大臣がどう判断するか。新たな政権のあり方が正直言ってどれくらいでかい」と話し、総選挙後との見通しを示した。

ているだけだ。そもそも異常洪水時にも水が足りる都市とというのは全国に例がない。節水型都市をめざすべきだ」(伊藤達也・法政大教授)

「人口が減るのに、名古屋市は水需要が伸びるといい続けてきた。いまでは日本で最も水が余っている地域だ。このうえ10年に1度以上の洪水時の施設の造るのか。国交省ですら『限られた水資源の有効利用』を唱えている」(水需給グラフを示しながら、富樫幸一・岐阜大教授)